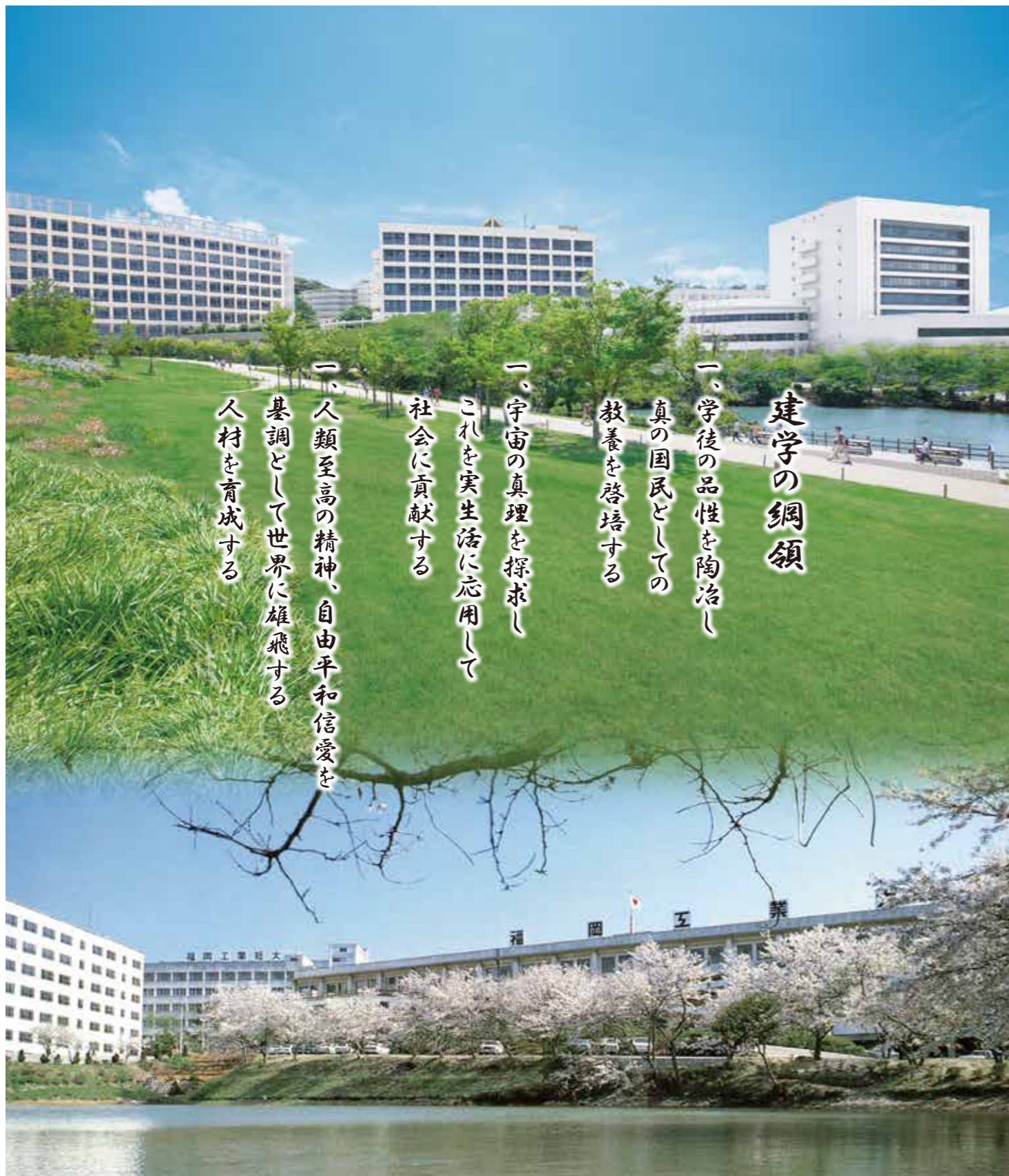


雄飛

一般社団法人 雄飛会
(福岡工業大学同窓会)会報 **vol. 21**

発行
一般社団法人 雄飛会(福岡工業大学同窓会)/会報編集委員会
〒811-0295 福岡市東区和白東3-30-1
TEL/FAX 092-608-5982
E-mail dousokai@fit.ac.jp
URL http://www.fit.ac.jp/dousokai/



建学の綱領

一、学後の品性を陶冶し
真の国民としての
教養を啓培する

一、宇宙の真理を探求し
これを実生活に応用して
社会に貢献する

一、人類至高の精神、自由平和信愛を
基調として世界に雄飛する
人材を育成する

平成26年度 同窓会育英金受給者決定

今年度は本育英金に16名の応募がありました。応募者の中から書類選考によって候補者を絞り、面接により受給者を決定しました。面接での選考では特に、①家庭の経済状況、②夢・目標や応募の理由、③家族構成や就学状況、④学業への取り組み姿勢などを重点に行いました。今年度の受給者は以下の通りです。

工学部	電子情報工学科	4年	Aさん
工学部	電子情報工学科	4年	Kさん
工学部	生命環境科学科	3年	Aさん
工学部	電気工学科	2年	Oさん
情報工学部	情報通信工学科	4年	Iさん
情報工学部	情報通信工学科	3年	Yさん
情報工学部	情報システム工学科	4年	Aさん
情報工学部	システムマネジメント学科	4年	Mさん

※個人情報保護の観点から、個人名は伏せさせて頂きました。

母校だより

同窓会会員子弟の受験料免除について

福岡工業大学および福岡工業大学短期大学の同窓会会員(在学生を含む)の子供、兄弟姉妹が本学の入学試験を受験される場合は、すべての受験料が免除の対象になります。

入試区分	入学願書による出願	Web出願	
大学	特別推薦(前期)	30,000円	-
	一般推薦、A方式、特別推薦(後期)	30,000円	28,000円
	C方式(前期・後期)	15,000円	14,000円
短大	特別推薦、自己推薦対話型	25,000円	-
	一般推薦A・B、一期A・B、二期	25,000円	23,000円
	C入試(前期・後期)	10,000円	9,000円

免除を希望される方は、願書を提出される前に、大学・短期大学部に問い合わせ「受験料免除申請書」を入手し、受験料の代わりに受験料免除申請書を出願時に同封してください。

■問合せ先
福岡工業大学・福岡工業大学短期大学部 入試課
TEL : 092-606-0634(直通) FAX : 092-606-7357
e-mail : fit-nyushi@fit.ac.jp

事務局より

1.募金・名簿などの勧誘について

民間の広告会社より「大学・同窓会の新聞広告」を掲載したいので寄付して欲しいという趣旨の電話による勧誘が行われることがあり、その金額も2万円前後と高額です。また、民間の出版社より「福岡工業大学総合名鑑」を発行するので、あなたの情報を提供して欲しいという勧誘も行われているようです。同窓会では寄付や名簿に関する活動などについては、理事会および社員総会の決議を経て責任の所在を明確にして、必ず文書でお願いしています。従って、右記のような勧誘に対しては、同窓会本部では何ら関知しておりませんので、ご注意願います。

2.異動の連絡をお願いします。

毎年発行される会報「雄飛」や会員大会案内などが皆様の手元に確実に届くために、正しい住所の把握が必要です。皆様の住所・電話番号・勤務先の変更や改姓などにより異動が生じたときは、同窓会にもご連絡くださると幸いです。異動のご連絡は、同窓会ホームページ(http://www.fit.ac.jp/dousokai/)の「住所変更のページ」から行うことが出来ますが、電子メール、FAX・葉書でも受け付けております。※異動(転居)がなくても、会報「雄飛」等が届かない場合は同窓会事務局まで「報ください」。

3.会報「雄飛」への情報提供をお願いします。

同窓会事務局では、皆様からの情報をお待ちしております。会員の近況・就職支援情報、会報「雄飛」に関する感想、その他ご質問・ご要望などどんなことでも結構ですので、ご一しお寄せください。

【連絡先】

福岡工業大学同窓会(一般社団法人 雄飛会事務局)
〒811-0295 福岡市東区和白東3-30-1
TEL 092-608-5982(直通)
FAX 092-608-5982
e-mail dousokai@fit.ac.jp

編集後記

会報誌「雄飛」が会員相互の絆を深め同窓会活動の活性化及び親睦に役立つ紙面を目標に、充実した会報誌を目指します。加えて、会員の皆様から愛される会報誌を心掛けて参ります。ご意見、ご要望並びにアイデアをお待ち致します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。
広報部長 米倉 和實(昭和45年電子工学科卒)

この度は、貴重な同窓会の会費による資金を学費として給付していただき、大変ありがとうございました。私は、同窓会育英金を受給するのは2度目であり、同窓会会員および役員の皆様方には大変感謝しております。
さらに、親にかかっていた負担を軽減することができ、家族も大いに感謝しています。このような制度がなかったならば、先の見えない状態で学業に集中して臨めなかったと思いますし、サークル活動にも参加することができなかつたかもしれません。また、このような厳しい時代において育英金を返還する必要がないこと自体驚くべきことです。これも先輩方の力があつたことですし、私自身も卒業後、後輩たちの力にならなければいけないと感じます。そして、私が社会に出て長い年月が経ったとしても、学生時代に福岡工業大学同窓会に支援してもらったからこそ今の自分があるということをお忘れずにしていきたいと思えます。また、福岡工業大学を卒業した後も同窓会の一員として社会の役に立て

るような人物になりたいです。
私の夢は仕事を通じてどんな形であれ地域の方々役に立てることであることであり、私生活の面では温かい家族を持つことなので、それに向かつて卒業まで残りわずかですが、大学生活を充実させたいと考えます。
そして卒業後は一人の社会人として早く仕事に慣れ、地域の方々の力になれるように努力していきます。
私は2度も受給することができましたが、私以外にも家庭の事情などで意欲が足りながら金銭面で不安を抱えている学生は少なくないと思います。これからそのような学生が増加するかもしれません。多くの学生の夢や目標を絶やさないためにも来年度以降も育英金制度を続けていってほしいと感じています。そして卒業後、同窓会活動に微力ではありますがお手伝いできることがあれば協力したいと考えます。今回は貴重な育英金を給付していただきありがとうございます。

小柳新会長就任挨拶

会長 小柳 辰生 (昭和45年電子工学科卒)



1. 名古屋大会での会長就任挨拶より抜粋
本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

先程行われました同窓会社員総会において、百原会長の後任として会長を拝命しました昭和45年電子科卒業の小柳辰生です。よろしくお願いいたします。

本日はご来賓として、母校福岡工業大学の学長下村輝夫様、常務理事大谷忠彦様には大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。また、後程ご挨拶をお願いしております。

さて、母校と同窓会の現況を簡単に申し上げますと、母校は平成26年度の入学定員830人に対して、志願者6,343人、倍率7.6倍の狭き門となり、就職率についても九州でトップクラス、また、学園経営においてもJCR等の格付機関から高い評価を受けるなど素晴らしい母校になっております。

同窓会は昭和41年に組織され一時休眠時期もありましたが、先輩方の変なご苦勞のおかげで、今日では盤石の組織になっております。早いもので来年は50周年を迎えます。

平成22年に同窓会組織も一般社団法人雄飛会として法人化されました。それまでの同窓会の総会決議は全員参加型で行われておりましたが、法人化後は各ブロック代表者の代議員による総会に変わりました。

また、平成24年に短大同窓会と合併しました。その結果、現在の会員数は大学3万5千人余り、短大1万人余りで合計4万5千人余りの大きな集団になります。このうち事務局で住所を把握しているのは60%の2万6千人余りになります。

次に、活動状況を申し上げますと、各ブロックの自主活動を支援するために活動援助金を設けておりますが、(一部の地区では活発な取組みをされている所もありますが)全体としては活動が停滞している状況です。

これらを打破するため、会報誌「雄飛」の紙面を増やし、リタイア組にも現役組にも有用な情報を提供することで、会の縦横の連携を強化して、「会員相互の親睦」と、母校の発展に貢献できる様にしていきたいと思っております。

また、各ブロックのご要望やご提案など取り入れ開かれた運営を目指して頑張りますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

2. オアンスを沢山創ろう
同窓会は母校を共有する卒業生の集りで、会社などとは異なり、それは弱い結びつきでしかありません。切れた同窓の糸を知恵と汗を少しづつ出し合い、「絆をつなぐ」美りのある同窓会にしていきたい。

名古屋大会実施報告

名古屋大会を顧みて

東海ブロック代議員 小野 裕 (昭和45年電子機械工学科卒)

昨年、百原会長より次回の総会を東海本部でお願い出来ないかとの要請があり、私も東京、大阪に続き名古屋での開催は当然と思いき快諾し東海本部の役員会に諮り、役員全員から賛成を頂き、さっそく会場(ホテル)選びから始め、まず条件として名古屋駅近辺で予算と開催の主旨に理解をして頂ける所として2社のホテルを候補に挙げ百原会長と協議して開催場所を6月28日名鉄グランドホテルとし、平成25年6月社員総会にて報告し承認を頂き会報雄飛に掲載し開催の準備は整いました。

開催地名古屋は関東・関西から近く又全国から交通の便の良さも相俟って参加者も160名以上となりました。大学からは、学長下村輝夫様、常務理事大谷忠彦様から母校の近況をご報告頂き母校の益々の発展の説明があり参加者全員が福工大卒業生として誇りを持ち母校の更なる発展に寄与する事が出来た総会であったと思ひ参加の皆様からも開催の労をねぎらう言葉を多数頂き役員一同温かいお言葉に安堵致しました。

これも参加された卒業生の皆様、福岡工業大学の役職員の方々同窓会本部役員の皆様のご支援の賜と感謝致し、母校の発展と卒業生皆様のご活躍を願つてやみません。



下村学長



大谷常務理事



片野前東海本部長



定時社員総会の様子



懇親会の様子



乾杯の挨拶をする小野代議員



短大卒業生集合



新役員紹介

会長退任のご挨拶

百原 武敏 (昭和42年電子工学科卒)



昭和42年、学園存続が大変厳しい状況下に卒業し、故あって大学に残りました。その後、全学園人の熱意と社会的に重きをなす多くの篤志家のご協力を得て、今の学園があります。

卒業生にとつて、相互交流の礎である同窓会の存在は非常に重要なものです。将来、大学が隆盛を遂げた折、その時同窓会を創るのは恐らく困難であろう。機が熟するまで、卒業生の動向を把握しておくことは、最低限必要なことである。その思いで、昭和45、46年にかけてデータを整備し、昭和47年に名簿を発行しました。個人の夜なべ仕事からの着手でしたが、初期段階で一番苦勞したのは資金調達でした。

さいわい、学生時代、学生寮の寮長を務めており、多数の先輩・後輩との知己があったことが役立ちました。

昭和47年、主に福岡市近郊・学内勤務のOBに呼びかけて役員組織を構築、8月27日に創立総会を開催し、中原基直氏(昭和41年電子卒)を会長とする同窓会発足の運びとなりました。

それからの約20年間は、OBの動向調査と名簿発行を主体とする雌伏の期間でありました。平成4、8年、大阪在住の村田三郎(昭和44年電子機械卒)会長は、同窓会の活性化に力を傾注して頂きました。

前後して、清水次朗氏(昭和44年管理卒)は、北海道から沖縄まで奔走し、各支部の設立に多大なご尽力をされました。平成8、25年、上田正勝(昭和42年電子材料卒)会長は、17年の長きに亘り同窓会を支えて頂きました。

小池勲氏(昭和42年電子卒)は平成6、14年の間、事務局長として会の規約整備と運営にご尽力されました。山口芳弘氏(平成3年電気卒)は、長年にわたり会報雄飛の編集を一手に引受けて頂きました。

そのほか、多くの本部役員・支部役員のご努力で、最近では組織・運営ともにさらに成長しつつあります。この間、私は副会長として実務処理に携わってきたのですが、昨年7月、上田元会長のご逝去に伴い会長職を受けました。しかし体調の問題もあり、去る6月28日の第14回大会(名古屋)を以て退任させて頂きました。

さいわい新会長に小柳辰生氏が就任され、氏の卓越した組織管理能力の下、同窓会のみならずの発展を期待しています。同窓会設立の思いを抱いてから足かけ47年、多くの皆様に大変お世話になりました。成長する同窓会と、社会的評価の高い母校とを誇りに思います。

また、皆様方とお会いできることを楽しみにしております。

支部会活動報告

【熊本県支部】熊本県支部総会報告

熊本県支部 副支部長 梅川 定喜(昭和45年電子工学科卒)

熊本県支部の活動の再活性化を図るため、昨年来、百原前会長(熊本県青北町出身)と西田前支部長が連携し、熊本県を三地区に分けて総会の開催を準備されました。本年2月8日に県南地区(八代、人吉、水俣および郡部)の総会が開催され、世代を超えた出会いの場に9名が集まりました。

つづいて天草地区総会が春といえども寒風の残る3月1日、天草の地で開催されました。この天草の地に77名に登る卒業生の名簿が有り意を強くした処であります。ただ、名簿としては天草の地に登録が有りますが、郷土を離れ各地で活躍をされている様子が確認出来ず、把握できておりません。当日は、百原会長初め、西田支部長までご足労いただき、学園の発展ぶりを再確認したところで有ります。

全出席者は7人と少し寂しさの残る会合でしたが、第1回目としてはまずまずの総会と成りました。天草地区の幹事に、昭和45年卒業梅川定喜と昭和49年卒業の濱崎宗治氏が就任され、天草地区の今後の雄飛会発展を心に刻んだ処であります。

また、翌4月26日には熊本県支部の総会が熊本交通センターホテルを会場として開催され、熊本各地より31名



総会模様



新支部長 中本龍二氏挨拶

【広島県西支部】広島県西支部総会報告

広島県西支部 支部長 藤本 正宏(昭和54年電子工学科卒)

平成25年8月3日(土)広島市内中心部の「リーガロイヤルホテル広島」安芸の間3階にて広島県西支部設立20周年記念総会を盛大に開催しました。

式次第

- 総会開会
- 一、広島県西支部長挨拶
- 一、会計報告
- 一、福岡工業大学本部よりご報告
- 事務局長 神谷英和様
- 一、記念撮影
- 総会閉会
- 同窓会開会
- 一、御来賓よりご挨拶と乾杯
- 中国フロック長 小畑太一郎様
- 一、抽選会
- 一、御来賓挨拶
- 一、学園歌・応援歌斉唱
- 同窓会閉会

広島県西支部設立20周年記念総会(支部長挨拶原文)

本日は平成25年度の支部設立20周年記念総会の御案内をいたしましたところ、皆様には大変お忙しいなか御出席を賜り、このように盛大に総会が開催できますことを感謝申し上げます。本日の総会には、公務御多忙ながら同窓会事務局より、事務局長の神谷英和様をはじめ、中国フロック長の小畑太一郎様、中国管内の各支部長5名の方に臨席をいただきました事、誠に有難うございます。

また今回は短大卒の会員の方にも参加をいただいております。昨年同窓会の合併が成されましたが、本日一緒に総会ならびに同窓会を迎えることが出来ます事大変嬉しく思います。今回は、昭和45年卒の方から平成17年卒の方まで大変幅広い方々にお集まりをいただきました。

の役員同窓会員が参集しました。熊本地区では過去数回開催されており、互いの顔なじみも居て、和やかな雰囲気の中、総会が終わり、その中で、長い間会長職を務められた百原会長が体調の都合で退任と聞き、組織の刷新を図る意味で新役員改選を行いました。

新役員

- 支部長 中本龍二氏(昭和51年通信工学科卒)
- 副支部長(熊本地区) 田中亮一氏(昭和37年短大電子科卒)
- 副支部長(熊本地区) 岩木政昭氏(昭和54年通信工学科卒)
- 副支部長(県南地区) 坂井龍祐氏(昭和44年機械工学科卒)
- 副支部長(天草地区) 梅川定喜氏(昭和45年電子工学科卒)
- 計 西田成人氏(昭和48年電子工学科卒)
- 顧問・監事 松尾雄雄氏(昭和42年電子工学科卒)

以上が就任した。

【鹿児島県支部】鹿児島県支部総会報告

鹿児島県支部 支部長 増水 紀勝(昭和42年電子工学科卒)

平成26年5月24日、鹿児島市内の「アクアガーデン・ホテル福丸」にて、久しぶりの第6回福岡工業大学同窓会鹿児島県支部総会を開催いたしました。

鹿児島県支部は、例年の如く大学・短大合同の総会として開催し、互いに卒業生としての誇りを分かち合いながら親睦を深め合っていました。平成24年11月1日をもって、大学同窓会と短期大学(部)同窓会が正式に合併致しましたことから、今後は、「福岡工業大学同窓会」の名称として新たな一歩を踏み出しました。

今回の総会は30名位の参加者のあることを願いながら、会員の皆様に総会案内を差し上げましたが、住所不明の返信ハガキや仕事等の都合によりどうしても出席出来なくなつたとの報も多く有り、残念ながら23名の参加に終わりました。

本部からは、宮崎県支部長の猿渡三喜男氏の参加を仰



ぎ、大学・短大の現状を詳細にお話しして頂きました。参加者一同は、当時の学生時代に深い思いを馳せ参じながら、母校の発展に心からの喜びを感じていました。

総会では、現在までの活動報告に続き、会計報告、監査報告をはじめ支部の規約改正を行い、さらに今後の活動方針等について意見交換を行って、新支部役員を選出を行いました。

新役員は、新任を加え大学、短大の卒業生で、社会的経験の豊富な陣容で構成され、新たな気持ちで同窓会発展のための奮いを致しました。

総会終了後の懇親会も大変な盛り上がりを見せました。和やかな中に、自己紹介等を交え、これからの活動に対して独自の講演会やイベントの開催を挙げたり、さらには忘年会を兼ねた懇親会や同窓会発展のための秘策等、活発な意見交換が交わされ、今後多くの夢と期待とが籠められた総会となりました。

これからも多くの同窓生の参加者が増える工夫を重ねながら、母校福岡工業大学ならびに福岡工業短期大学の発展に如何に寄与してゆかかを考え、さらに新たな目標を掲げて邁進してゆく決意を持って閉会致しました。

本日御出席がかなわず、会費を寄附していただいた方がいらつしやいましたこと、皆様に御紹介することにも、改めて感謝申し上げます。私は昨年暮れの総会で支部長に選出されまだ8か月の着任期間ですが、記念総会の開催をぜひ実現したいと支部幹事の皆様に提案し、前支部長をはじめ幹事の皆様、会員の皆様の温かい御協力のお蔭で今日を迎えることが出来たと感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

本日の総会では具体的な事業計画をお話し出来ずに申し訳ありませんが、中国管内の各支部長の方々に御集まりいただいたことを機会に、管内の交流を活性化して後輩育成の場を提供できるような仕掛け作りを取組んでいければと考えています。会員の皆様が持ち得る技術と経営に優れた各企業が、地域で信頼され地域の貢献に役立つ活動に取り組んでいけることを願っております。

最後になりましたが、会員の皆様の今後ますますの御健勝と御活躍・御発展を祈念して、総会の開催に当たっての挨拶といたします。本日は、どうぞよろしくお願いたします。

追伸

平成25年8月3日(土)広島市内中心街において、広島県西支部設立20周年記念総会・同窓会を同窓会本部事務局長の神谷様にご出席いただき、開催いたしました。今回の会合には中国管内の支部長の方々にもお声掛けをして、中国フロック長の小畑様をはじめ多数の方々にご参加いただきました。今回の御縁をきっかけに中国管内の繋がりをますます発展させていければと考えています。出席者は32名

総会では、会計報告の御承認をいただき、続いて同窓会(懇親会)へと進行を進めていきました。前任の信本支部長より昨年12月に支部長を引き継ぎましたが、皆様の御協力により記念総会を無事開催することができましたことを感謝いたします。

写真については、笑顔のある写真を選んでご案内させていただきますので、ご理解願います。



大学強化クラブ活動報告

ラグビー部

九州学生王者として『自らがやる』
リーグ4連覇と大学選手権への道

監督 宮浦 成敏



平成25年11月17日(日)11時、愛知県名古屋市の瑞穂公園ラグビー場で本学ラグビー部は、朝日大学と大学選手権のセカンドステージ出場を賭して戦った。その日の正午すぎにその願いは露と消えた。一同悲しみ、悔しさの気持ちの中すぐ切り替えた。直後に今季は中島進護を新キャプテンとし、九州王者の復権のための次なる戦いへ始動した。朝日大学に敗北したことから学び、その学びから気づいたこと『自らがやる』『俺がやる』という行動規範。学生と指導陣がともに議論し、「考動」「固執」「熱意」の3つをキーワードに据え、切磋琢磨しともに進化し前進していくことを刻み、部の活動の中心とする柱とした。

選手一同、早朝、昼、夕方と厳しい鍛錬を行ってきた。心身が悲鳴をあげていることが分かっていても、手を緩めることなく練習に明け暮れた。指導者も汗水を流して選手を叱咤激励し支えていった。課題や問題点が発生すれば、一緒に吟味し解決する方策をつくり絶えず実践した。昨年の敗北の日から、冬、春、夏を一丸となつて活動し着々と準備を整え、今年の秋季リーグ4連覇に向けてのシーズンに入った。泥臭く厳しい鍛錬により、柳のごとくしなやかに揺るぎない土台と中心軸の定まった集団に少しずつだが近づきつつある。

今年創設50周年を迎えた。学校と数多くの先人の方々のお力添えがあつての半世紀。次の半世紀の元年に新たな歴史をわがラグビー部は、『明確』に刻む覚悟である。明確とはリーグ戦4連覇、そして大学選手権セカンドステージ、そして制覇への挑戦である。それは他大学との戦いでなく、『自分と戦う』『自らがやる』を徹底することで本懐を遂げる。それこそが、ラグビー部が今の環境で活動させて頂いている感謝の意を表す本質である。

硬式野球部

『全心野球』

監督 塩屋 佳宏



初めまして、私は福岡工業大学硬式野球部で監督を務めさせて頂いております塩屋佳宏と申します。私自身、本学硬式野球部のOBであり、卒業後コーチを経て、平成21年4月からチームの指揮をとっております。

学生に指導する上で大事にしていることは、「社会で役立つ人間作り」「社会で必要とされるリーダー作り」を目指すために、
1、寮生活・私生活「寮(私)生活は規則正しく」
2、学業「勉学は真面目に粘り強く」
3、野球「練習は意欲をもつて積極的に取り行い、継続する」
の硬式野球部三大原則を頭に入れながら指導しています。また、チームのモットーである全心野球「全ての選手が心を一つに、全てのプレーに心を込めて」を体現することにより97名の選手全員が神宮大会で優勝を目標に日々練習に励んでおります。
昨年、春季、秋季リーグ戦におきまして、40年ぶりの春秋連覇を達成、6月の全日本大学選手権大会に出場することができました。
今後も好成績を残せるよう、硬式野球部一同、日々精進して参りたいと考えております。これからも皆様の温かいご支援、ご声援の程宜しく
お願い致します。



女子柔道部

『闘志無き者は去れ』

監督 泉 麻生



日頃より、女子柔道部の活動にご支援ご声援を賜り誠にありがとうございます。

さて、私も女子柔道部は平成11年に短期大学に創部され、2年後の平成13年に大学での活動に重点をおくべく発足、発展して参りました。現在、短期大学時代から数えますと16年目の活動になります。

部員数については、毎年少ない人数ではありますが少数精鋭で日々の稽古に励み、団体戦では九州学生柔道優勝大会で上位にくい込むなど、毎年のごとく全国大会に出場しております。

ここで過去の戦績についてご紹介させて頂きます。はじめに、団体戦の九州学生柔道優勝大会において優勝5回。全日本学生柔道大会では優勝1回、準優勝2回、3位2回と上位進出を果たしております。また、個人戦においては、全国大会を制した本田明日香(平成13年卒)、大木千夏(平成22年卒)の両名が世界学生柔道選手権大会へ出場し、国内のみならず世界の舞台で活躍し福工大の名を世界にとどろかせてくれたことと思っております。今年度については、6月に九州学生柔道優勝大会で3位入賞し全国大会へ出場することができました。しかし、全国大会では力を出し切ることなく悔しい思いをしました。個人戦においても同様に力を出し切れず残念な結果となりました。

今後とも部員一同、「精力善用」「自他共栄」の柔道精神を磨くと同時に、謙虚な心を以つて自ら学ぶこと、考えること、尊敬の心を持つことなど人格を形成していくと同時に全国制覇奪還目指して日々精進して頑張つて参ります。
今後とも、ご支援ご声援の程よろしく
お願い致します。



吹奏楽団

福岡工業大学同窓会会報
「雄飛」に寄せて

指揮者 柴田 裕二



昭和38年に創部された本学吹奏楽団は、現在76名の学生が在籍しています。私が監督に就任した平成12年時は部員数13名で、将来どのようなバンドになるか見当もつかない状態でしたが、学生と真摯に音楽に取り組んでいくうちに、部員数は増加し、いつの間にか現在の形まで成長することが出来ました。平成14年度の全国大会に初出場して以来、毎回全国大会に出場することができ、今年度も、8月30日に長崎県で行われた九州大会において金賞を受賞、10月18日に新潟県で行われる第62回全日本吹奏楽コンクールに出場することが決まりました。今回が私自身10度目の全国大会になります。

平成23年には第59回全日本吹奏楽コンクールで金賞を受賞、最高得点を獲得し日本一になりました。その後2年連続金賞受賞、さらに全日本アンサンブルコンテストにおいても金管八重奏が金賞に輝きました。対外的な活動では、平成24年9月、タイ王国シリキット王妃生誕80年記念コンサートに招待され、その演奏力はタイ王室より高い評価を受けました。平成25年3月、WBCの開幕戦で両国歌を演奏する機会を戴きました。その他、本学野球部が長年にわたり築いてきたスポーツ交流同様、文化交流を深めるために枕崎市での特別演奏会も行っています。

このように、現役の学生達は学業と課外活動の両立に努め、日々練習に取り組んでいます。これからも在学生の活動にご理解ご協力をよろしく申し上げます。



一般クラブ・サークル活動報告

アイスホッケー部

社会環境学科4年(大牟田北高校)
主将 浅山 和茂



アイスホッケー部主将の浅山和茂です。アイスホッケーと聞いてあまりピンとこない人も多いと思います。現に九州ではマイナースポーツで、福岡工業大学アイスホッケー部のほとんどの部員が大学生からアイスホッケーを始めています。部員15名(内マネージャー3名)と決して人数は多くはありませんが、厳しくも楽しみながら部活動を行っています。

マイナースポーツで練習場所が限られるということもあり、金銭面・練習確保だけでも学生には大きな負担となっていました。しかし、OBの方や本大学からの最大限のご支援をいただき、部として大きく成長できたと感じています。昨年の九州学生アイスホッケーリーグでは3部リーグ全勝優勝、2部昇格という実績を残すことが出来、今年の新人戦でも九州3位と好発進をきることができました。また、平成25年のカナダ合宿に2名選ばれスキル・精神面で大きく成長することができました。日々の厳しい練習を乗り越え、福岡選抜選手1名、大分選抜選手1名が在籍しています。

本年の目標はもちろん九州学生アイスホッケーリーグ(11月開催)で2部優勝、1部昇格です。練習場所は氷でも寒いですが、その氷の上で練習している部員はとて情熱的で、ぎつぐつとも歯を食いしばりながら練習に打ち込んでいます。福岡工業大学アイスホッケー部をこれからも応援とご支援よろしくお願ひします。



弓道部

社会環境学科3年(福工大附属城東高校)
主将 北田 智大



体育会弓道部、第47代主将の北田智大です。部員は男子21名、女子7名で活動しています。日々の練習は夕方からの2時間程度と短いですが大大会で成績を出せるように頑張っています。特に北部リーグ大会では、去年女子団体が3部リーグから2部リーグへの昇格、今年男子団体が2部リーグから1部リーグへの昇格と好成績を残しています。

他の大きな大会では、男女団体共に予選上位8校に入り決勝リーグに上がることもありま。表彰に入ることにはまだまだ少ないですが今後入れることを目指していきます。10月にある大会で、3年生は引退してしまうので表彰に入れるように頑張ります。

私が主将になり、弓道部が好成績を残せるようになっていきました。私一人の力ではこのような成績を残すことができません。幹部、部員の支えがありこまごまできました。成績はもちろんのこと部活動の雰囲気、人間環境など目には見えないところで助けていただき感謝しています。

これからも、部員に支えられながら、10月にある大会に向けて頑張っていきます。引退試合なので大会が終われば代が変わってしまいますが、今後とも頑張っていきますので弓道部をよろしくお願ひします。



アカペラ愛好会

情報工学科3年(鞍手高校)
部長 幸田 健吾



みなさんこんにちは！福岡工業大学アカペラ愛好会部長の幸田健吾です。初めに、みなさんアカペラというものを、ご存知でしょうか？アカペラとは、楽器を一切使わずに、口だけで演奏するというものです。

私たちの愛好会は、今の4年生が立ち上げ、もうすぐ5年目を迎えるようになっています。とにかく、歌うことが大好きな者達が集まり、日々楽しく活動しています。

音楽経験の浅い者たちはばかりで、はじめはちゃんとやっつけられるか不安も多かったのですが、顧問の宮本先生にも支えられながら、無事今日までやってこることができました。

今年の8月には初めて県外に出て、他大学のアカペラサークルと合同でライブをさせて頂きました。

これを機に、もっと積極的に他大学との交流も増やしていきたい、このアカペラ愛好会をよりよいものにしていきたい、福岡工業大学アカペラ愛好会のファンを増やしていきたいと思ひますので、どうか応援よろしくお願ひします。



ボランティアサークル Marching 同好会

情報通信工学科2年(須恵高校)
代表 山下 拓弥



今年度から我々のサークル「Marching」は立ち上がりました。なぜ、サークルを立ち上げるに至ったかといいますと、今年の3月に私は岩手県にてボランティア活動に参加させて頂きました。そこでたくさんの方々の貴重な経験をさせて頂いたら、様々な思いから、福岡に帰ってきてからも東北へ向けて支援したいという想いと、いつ私たちの住む福岡が被災地になるかわからないという想いが大きくなりました。この二つの想いからどうにか動けないかと模索していました。そこで、福岡工業大学には環境系のボランティアサークルは存在しましたが、災害に対するサークルはないという事に気づき、ならば自分自身で作ってしまおうと考え、サークル設立に至りました。

設立して間もないのであまり大きな活動はできていないのですが、主な大きな活動として福岡県庁主催「大学生災害ボランティアサポーター養成研修」の受講、一般社団法人市民ネット主催「ママスカフェ」を月一で参加、小学校へ訪れ授業の学生スタッフなど様々な活動を行っています。

今後のサークルとしての目標は、今は団体主催の活動にしか参加できていないので、我々のサークル主催で何かボランティア活動を企画したいと考えています。また、これまで以上にサークルが盛り上がりつついけるように精進します。



ダンス同好会

システムマネジメント学科3年(新宮高校)
主将 三浦 光二



こんにちは、ダンス同好会主将の三浦光二です。現在ダンス同好会は30人で活動しています。活動場所は主に福岡工業大学のトレーニングルームで練習しており、週5日活動しています。昨年からは福岡女子大学とも共同で活動し、互いに練習場所の共有や情報の交換をして日々精進しています。

ダンスは他のスポーツとは異なり一人で参加できる大会や多人数での参加できる大会と様々な形態があります。

昨年行われた大阪BIGBANという学生西日本一を決める大会では、FREAKTIEZという二人チームで見事優勝することができました。チームだけに留まらず一人でも様々な大会で成績を残しており活躍の場を広げている活気のある同好会です。

更にダンス同好会は九州・大学生ストリートダンスサークル連盟SENSEに入っており、11もある大学との連携をとりながら大会やイベントの運営もしています。

今年、ダンス同好会は10周年を迎えアニバーサリーイベントや福岡工業大学のトレーニングルームで行う大会の運営などを企画しています。福岡工業大学のダンス同好会を知ってもらったためのイベントをこれから沢山開く予定です。

ダンスは風管法など風当たりの強い分野ですが、純粋にダンスが好き人が多いからこそここまで大きなコミュニティまで成長しています。イメージも悪い面も多々ありますが、ダンス同好会を通して皆さんにダンスの良さを伝えていきたいです。



懐かしのクラブ活動



野球部



剣道部



応援団



ラグビー部



アーチェリー部

あの先生は今

3年前博多駅の開業を楽しみにしていた頃、心臓の冠動脈に血栓が見つかり入院手術をしました。若い看護婦さんや技師の人々がいと簡単にMRIやレントゲン心電図計などの機器をいとも簡単に操作していました。

自分達の研究は金型を通じて電子部品やその他の部品の小型化でした。世の為人の為を思っただけで

ご無沙汰しています、元電子工学科でお世話になりました。産学共同で三井ハイテックで開発したハイブリッド自動車のモーターコアがトヨタ自動車に採用されて世界中に広まっています。入江研究室出身の島津浩志さんが製造部長として頑張っています。西土井和彦さんも同じ職場で働いています。

学校を退職した後、引き続き昭和電気研究所、ホームランシステムズの顧問を続けさせて頂いています。昭和電気研究所は九州でもトップクラスの電子部門の開発する会社で入江研究室出身者が5人はたらい回しています。ホームランシステムズは病院給食を受託する会社で献立をコンピュータ画面に表示して誰が作っても同じものが出来るシステムが人気を呼んで発展中です。

退職後有田焼の窯元岩尾磁器工業の顧問として新たな開発のお手伝いをしています。3年前には新しく出来た博多駅のタイルのお手伝いをさせて頂きました。全国の皆さんから募集した葉っぱや鳥の絵を千住博先生が監修された絵をもとに合計57、000枚のタイルに転写した後に焼き上げたものです。タイル生地から同じ形状のタイルを大量に作るためのノズルに、自分の体験した金型の知識が役立ちました。岩尾にも自分の研究室出身の宮崎さんが頑張っています。

恩師の先生にお声がけいただいたことも有り、平成14年に福岡工業大学大学院博士後期課程へと進学しました。3年間で博士の学位を取得することは出来ませんでした。翌年に博士(工学)の学位を取得することができました。その後、福岡工業大学知能機械工学科のポストドクターとして2年間本学に在籍させていただき、平成20年度より本学知能機械工学科の助教に就任しました。大学入学以降、現在に至るまで福岡工業大学にずっと在籍しているという事実より、『福岡工業大学と私』にはよほど強い縁があるのだろうと改めて感じています。

現在は大学教員として、ものづくりの基礎となる加工技術に関係する研究を行っています。加工の対象になるのは世界で最も硬いとされているダイヤモンドです。ダイヤモンドはものを削るための工具として優秀だけでなく、絶縁耐圧や熱伝導率といった物理特性に優れており、究極の半導体になると言われています。このダイヤモンドを短時間かつ高精度に目標の形状に加工できる加工技術を開発することが私の大きな研究目標になっています。

本学の教員になって7年の月日がたちました。7年の間に多くの企業や大学の研究者と知り合い、私の知らなかった様々な知識や研究に対する真摯な態度を拝見してきました。これらの経験を学生に還元し、これからの時代で活躍できるような学生を育てていけるように、努力を怠らず邁進していこうと思っています。

会報「雄飛」に寄せて



元電子工学科 助教授 入江 正武

「毎日が日曜日」



元電気工学科 教授 工藤 孝一

研究が自分の命を救う事になりました。情けは人の為ならずとしみじみ感じたことでした。3年経過して現在は元気を取り戻しました。皆さん方にご心配とご迷惑をお掛けしました。

34年間勤めた福岡工業大学を平成26年3月に定年を迎え退職した。振り返れば様々な事があり長かった様にも思うが、今ではあつという間に過ぎ去ったという感じが深い。定年を迎える直前は毎日が日曜日の生活はどう過ごせば良いのだろうと少し心配もあったが、本来怠り者である事にも救われて2ヶ月も経つとすっかり生活は落ち着いてきた。以前から行っていたバラ作りや庭の草花の世話で十分時間が過ぎて行く。広くもない庭の草取りだけでも2ないし3週間毎に一巡する必要があり、結構忙しい。勤めていた時は手入れが十分出来なかったが、今はバラが要求するときに手入れが出来るので、立派な花を咲かせたいと張り切っている。この夏は天候が不順で消毒が行き届かず秋の剪定を前に葉が沢山落ちてしまっ自然相手の仕事は本当に難しい事を思い知らされた。ただ今の生活は穏やかで身体にも良いようで、務めを終える最後の3ヶ月は私事の事情も加わり血圧が180を超えてしまっていたが、退職後に始めた朝の散歩も効いたのか現在では140台で落ち着いている。

大学にはご無沙汰だが、時々ホームページを見て活躍を確認している。私学は大変な時期を迎える事になるが、秋のバラが奇麗に咲いたら激励の意味も込めて事務室に届けられたらと思っ庭仕事に精を出しているこの頃である。

活躍するOB教職員

電子情報工学科 教授 田中 秀司
(昭和50年電子材料工学科卒)



開学以来45、517名の卒業生を輩出。私も昭和50年に電子材料工学科を卒業して雄飛会の一員となりました。在学中には誰にでも誘われる想い出を作ることができました。ワンプクでもいい遅く遅く：の時代でした。級友は少なく、講義はジブシーのように他学科との合同講義室へ移動していました。ワンプクを共にした生涯の友も多数できました。

卒業後、助手として福岡工大に勤務しましたが、数年に涉って全学・時限ストライキが実行され戸惑いの年月を過ごしました。

昭和60年に半導体デバイス製作実験センターが開設されました。以来、主務者として管理運営に従事してきました。シリコン基板からデバイスを製作し、その性能を調べる学習効果は大きく、多数の人材を輩出しました。開設当初より、指導していたいた北川先生と服部先生には感謝しております。平成15年に学位を取得でき、電子情報工学科に在籍しております。最近は、地域産業力向上と研究レベル高度化のためエレクトロニクス研究所の機器整備に熱意をもって教職協働体制で奔走しています。

鶴木理事長、下村学長と大谷常務理事の教職員・在学生に対するきめ細やかな配慮と私が本学の面倒見の良い大学であると大学情報誌などで高い評価に至っている要因だと思えます。

さあ、大好きな福岡工大と共に同窓生として開学100周年を目指してスタートしてまいりましょう。皆様とご家族が生き生きと活躍されることを願っております。

知能機械工学科 助教 天本 祥文
(平成14年電子機械工学専攻修了)



恩師の先生にお声がけいただいたことも有り、平成14年に福岡工業大学大学院博士後期課程へと進学しました。3年間で博士の学位を取得することは出来ませんでした。翌年に博士(工学)の学位を取得することができました。その後、福岡工業大学知能機械工学科のポストドクターとして2年間本学に在籍させていただき、平成20年度より本学知能機械工学科の助教に就任しました。大学入学以降、現在に至るまで福岡工業大学にずっと在籍しているという事実より、『福岡工業大学と私』にはよほど強い縁があるのだろうと改めて感じています。

現在は大学教員として、ものづくりの基礎となる加工技術に関係する研究を行っています。加工の対象になるのは世界で最も硬いとされているダイヤモンドです。ダイヤモンドはものを削るための工具として優秀だけでなく、絶縁耐圧や熱伝導率といった物理特性に優れており、究極の半導体になると言われています。このダイヤモンドを短時間かつ高精度に目標の形状に加工できる加工技術を開発することが私の大きな研究目標になっています。

本学の教員になって7年の月日がたちました。7年の間に多くの企業や大学の研究者と知り合い、私の知らなかった様々な知識や研究に対する真摯な態度を拝見してきました。これらの経験を学生に還元し、これからの時代で活躍できるような学生を育てていけるように、努力を怠らず邁進していこうと思っています。

学園歌

あ、玄海に陽は落ちて
紫紺にかすむ立花の
馨床しき峯の色
学徒の夢をそゝるかな
雲はるかなる北洋や
仰ぐ北斗のまたたきに
想いは遠し故郷の
山河新たに胸に沁む
さあれ若人永遠に
汝が生命は火と燃えて
行くや世界の真原理
貫きとめん福工大

第一応援歌

風荒れさわぐ玄海の
海波ひとたび怒りなば
朔北の雄福工大
結果にいどむ戦いに
勝利の戦旗奪わんと
盟友会す決戦場
工大 工大 若き工大
あ、団結の力こそ
今激闘の唯中に
栄光かけていざ征かん
決死奮戦倒るとも
断固と護れ青き旗
鮮血にじむ学園旗
工大 工大 若き工大
ライトブルーの旗の下
天下の雄を摺伏し
あげるかちどきたからかに
きけ玄海の唯中に
ひとり雄叫ぶ福工大
万古の歴史きずかみや
工大 工大 若き工大

懐かしの学舎写真集



大学周辺の移り変わり



キャンパス航空写真に見る今と昔

現在



昭和44年



決算・予算報告

平成25年度決算 平成25年度収支計算書(H25.4.1~H26.3.31) 単位:円

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費	20,600,000	総会費	2,000,000
預金等利息	167,803	理事会費	1,226,260
寄付金	390,000	支部費	4,514,405
雑収入	740,000	広報費	2,924,745
一般会計繰入金	2,693,000	会員情報管理費	661,658
小 計	24,590,803	学生修学支援費	3,360,000
前年度繰越収支差額	15,751,747	学生就職支援費	700,000
		学術文化スポーツ振興費	500,000
		事務局費	5,025,457
		不動産・動産償却費	0
		同窓会会館建設費積立金	0
		特別記念事業費積立金	0
		予備費	0
		小 計	20,912,525
		特別会計引当金	1,000,000
		一般会計繰入金	2,693,000
		次年度繰越収支差額	15,737,025
合 計	40,342,550	合 計	40,342,550

平成26年度予算 平成26年度収支予算(H26.4.1~H27.3.31) 単位:円

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費	19,200,000	総会費	3,800,000
預金等利息	190,000	理事会費	1,800,000
寄付金	0	支部費	5,092,000
雑収入	900,000	広報費	2,950,000
一般会計繰入金	4,483,000	会員情報管理費	730,000
小 計	24,773,000	学生修学支援費	3,120,000
前年度繰越金	108,655,178	学生就職支援費	700,000
平成27年度会費前受金	16,800,000	学術文化スポーツ振興費	500,000
平成26年度会費前受金	△16,700,000	事務局費	5,081,000
総会費積立金	△2,000,000	予備費	1,000,000
動向調査費積立金	0	小 計	24,773,000
特別会計引当金	△1,000,000	同窓会会館建設費積立金	0
同窓会会館建設費積立金	0	特別記念事業費積立金	0
特別記念事業費積立金	0	不動産・動産償却費	0
一般会計繰入金	△4,483,000	次年度繰越金	101,265,878
平成25年度預り金	△6,300		
平成26年度預り金	0		
不動産・動産償却引当金	0		
小 計	101,265,878		
合 計	126,038,878	合 計	126,038,878

平成25年度貸借対照表(H26.3.31現在) 単位:円

借方(資産)		貸方(負債)	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金	134,315	会費前受金	16,700,000
郵便振替口座	7,268,450	基本金	4,293,306
普通預金・郵便貯金	11,638,261	総会費積立金	2,000,000
定期預金・担保定期貯金	44,614,152	動向調査費積立金	2,522,130
利付国債	45,000,000	同窓会会館建設費積立金	60,000,000
小 計	108,655,178	特別記念事業費積立金	8,498,162
什器備品	1,101,745	預り金	6,300
		小 計	94,019,898
		次年度繰越収支差額(正味財産)	15,737,025
		未処理金	14,635,280
		備品	1,101,745
合 計	109,756,923	合 計	109,756,923

平成26年度 代議員一覧 (平成26年6月~)

氏 名	卒年科クラス	役 職	運営委員・専門部等	選出地域
小柳 辰生	70電子	会 長		福 岡 支 部
米倉 和實	70電子	副 会 長	運営委員 広報部長	福 岡 支 部
神谷 英和	67材料	事務局 長	運営委員	福 岡 支 部
田中 陸教	66電子	理 事		福 岡 支 部
外山 吉計	71通信	理 事	運営委員 学生就職支援部	筑 後 支 部
桑原 雅浩	83電気	理 事	運営委員	福 岡 支 部
齋藤 文親	67電子	監 事		福 岡 支 部
田中 秀司	75材料	監 事		福 岡 支 部
滝石 義礼	76電気			関 東 ブ ロ ッ ク
石黒 佳一郎	72通信			関 東 ブ ロ ッ ク
小野 裕	70機械			東 海 ブ ロ ッ ク
浅野 正之	75電気			関 西 ブ ロ ッ ク
松本 良次	75電気			関 西 ブ ロ ッ ク
藤本 正宏	79電子			中 国 ブ ロ ッ ク
岩岡 一平	85材料			四 国 ブ ロ ッ ク
小口 幸一	71電子		運営委員	福 岡 支 部
楠本 總幸	71通信		運営委員 学生修学支援部長	福 岡 支 部
萩田 寛司	72電子		運営委員 学生修学支援部	福 岡 支 部
小柳 礼二郎	74電子		運営委員	北 九 州 支 部
松岡 伸一郎	71電気		運営委員 会員情報管理部長	筑 豊 支 部
牧瀬 亥一郎	69電子			長 崎 ・ 佐 賀 ・ 大 分
猿渡 三喜男	75機械			熊 本 ・ 宮 崎 ・ 鹿 児 島
宮城 洋一	75通信			沖 縄 支 部
上野 浩一	66電子		運営委員 会員情報管理部	福 岡 支 部
松尾 一壽	71電子		運営委員 学生就職支援部長	福 岡 支 部
橋 豊文	69電子		運営委員	福 岡 支 部
北村 敏幸	81通信		運営委員 学術・文化・スポーツ振興部長	福 岡 支 部
山口 芳弘	91電気		運営委員	福 岡 支 部
藤野 和美	92電気		運営委員 広報部	福 岡 支 部
倉光 真紀	92短大		運営委員 広報部	福 岡 支 部



予告

平成27年6月20日(土)午後5時30分、
ホテルセントラーザ博多(JR博多駅筑紫口より)にて開催!

福岡工業大学同窓会
福岡支部総会

平成26年度の就職状況について

学生部 就職課 課長

三澤 礼一郎



同窓会ならびに会員の皆様には、日頃より多大なご支援ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。それでは本年度の就職状況についてご報告をいたします。

最初に本年度の求人環境ですが、本年度の企業の採用予定数は前年実績比15.1%増、また新卒求人倍率は1.61倍(前年比+0.33倍)とリーマンショック以降横這いの新卒の求人環境はようやく回復しつつあります。

このような状況の下、本年度の大学の内定者数は昨年を上回る順調なペースで増加しています。9月末の内定率は、大学81.6%(前年同時期比+12.3%)、短期大学64.1%(同+4.1%)となっており、前年に比べて約2カ月も早いペースで推移しています。

就職課ではこれらの学生の就職活動を支える様々な支援プログラムを実施していますが、中でも同窓会にご支援いただいています「就職活動のための交通費支援」は、県外企業を受験する学生にとりまして大変有益性の高い強力な支援となっております。毎年300名以上の学生がこの交通費支援を利用して内定獲得に繋がっております。

次年度卒業予定者(現在の大学3年生、短大1年生等)からは、就職・採用活動開始時期が大幅に変更になります。大きな環境の変化となりますが、就職課としてはしっかりと対応して更なる飛躍の機会としてまいります。

同窓会ならびに会員の皆様には、引き続き受験企業の紹介やインターシップの受け入れ等、在学生への就職活動へのご支援を賜りますようお願いいたします。

学園の歴史探訪

学園の守護神「鞘(さや)の神」

福岡工業大学同窓会 理事(学生部 学生課 課長) 桑原 雅浩 (昭和58年電気工学科卒)



卒業生の皆さんは、大学の敷地付近に祀られている神様のことはご存じでしょうか。

昔から学生、生徒の間では「勝利の神」や「勝利の女神様」などと密かに囁かれてその効力は伝説となっております。神様が鎮座される場所は大学の正門を右に出て50メートル程歩くと左手方面に和臼グラウンドが望めます。視界をグラウンドと公道の境に移すと神々しい小高い丘が目に入ります。大きく茂った楠木の麓に小さな祠が窺えます。

和白郷土史研究会の調査によると、神様の名称は、「鞘(さや)の神」と呼ぶそうです。また、云々によれば、百日咳、寝小便、歯痛など、子供の病気に効き目があるとして地元は勿論、近郷からもお参りがあつたようです。一方、花柳病、陰萎に悩む人々の祈願も叶えてくれるといふことす。

昔は奉塞の木製、石製の陽物で飾られ、木肌の鳥居が据えられて「鞘(さや)の神」に縁のある方や地元の方々に崇められていたのですが、今では、奉

りを継承する方が途絶えているようです。それから鳥居も朽ち果てて傾く状態が続いていました。その様子を見かねた町内の方の声に和臼校区自治協議会が動き、城東高校の経済支援により真っ赤な鳥居が新調されています。

毎朝、城東高校の生徒の皆さんにより「鞘(さや)の神」周辺の清掃が行われており、いつも清々しく思っています。

本学とは歴史的に深い縁のある「鞘(さや)の神」は、学生生徒の安全と学園の発展を静かに見守って下さっているのではないのでしょうか。卒業生の皆さんもいつか母校に帰った際には一度立ち寄ってみて下さい。

